

研究職員（選考採用）募集要領

農林水産省農林水産政策研究所では、標記研究職員の募集を行っております。

選考採用は、国家公務員総合職試験では適任者が得られない特別の知識、能力又は技術を必要とするポストについて、優秀な人材を採用するために行っているもので、今回の採用予定ポスト、募集条件、選考採用試験要領は下記のとおりです。

記

1. 採用予定官職及び研究業務内容とキーワード

農林水産政策研究所研究員 1名
(詳細は別紙のとおり)

2. 応募条件

- ① 博士課程修了者又は修了見込者（採用予定日前に博士課程を修了し、学位取得が可能な者）
- ② 研究職員として採用予定ポストの研究課題を担当するために必要な知識、能力又は技術を有する者

3. 提出書類

- ① 履歴書（市販のA4版用紙に手書きし、写真を貼付すること）
- ② 研究業績報告（所定の様式に従って研究課題、背景、方法、成果、成果の評価、発表論文等を記載）
※様式及び記載方法は別紙のとおり
- ③ 主要な論文、著書等3点を各3部（コピー可）
ただし、単著又は筆頭著者のものに限ります。
- ④ 応募する仕事に対する抱負（A4版1枚）
- ⑤ 事務連絡用E-mailアドレス（書類受理通知等）

なお、提出書類は返却しないので、予めご了承ください。

4. 書類提出先

〒100-0013

東京都千代田区霞が関3-1-1

中央合同庁舎第4号館

農林水産省農林水産政策研究所

総務部庶務課人事厚生係

※ 封筒あるいは封緘した包みの表に「研究職員（選考採用）応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付して下さい。

5. 応募締切

平成25年12月27日（金）（必着・締切日厳守）

6. 選考採用試験

- ① 研究業績の書類審査は、平成26年1月上旬に行われます。
- ② 書類審査の結果及び面接試験の日程等については文書により通知します。

7. 採用時期

平成26年4月1日予定

8. 給与等

一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律 第95号）に基づき決定。

9. 問い合わせ先

農林水産省農林水産政策研究所

・研究内容に関するもの

企画広報室 出田（いでた）

・事務に関するもの

総務部庶務課人事厚生係 岡田（おかだ）

TEL : 03-6737-9000

FAX : 03-6737-9600

採用予定官職及び採用理由

場所名：農林水産政策研究所

採用予定官職	研究課題と研究業務内容	採用予定時期等
<p>農林水産技官 農林水産政策研究所 研究員</p>	<p>「農村の維持・再生及び農業・農村の新たな機能・価値に関する研究」</p> <p>水田作地帯において、水の共同利用や共同作業等を通じて農村コミュニティが従来から発揮してきた機能の維持・再生に必要な取り組みを実施するのに必要な担い手の確保、体制の整備、農村コミュニティのあり方、必要な支援策について調査分析を行う。</p> <p>水田作地帯では、古来から水の共同利用や共同作業を通じて、都市や園芸作地帯、酪農地帯等では見られない独自の農村コミュニティを形成し、それが、水田農業や水田地域の地域社会が果たすべき機能の維持・増進に貢献してきた。また、こうした農村コミュニティを中心となって形成してきたのは、平均経営規模が1ha前後の兼業農家であった。</p> <p>しかしながら、①中山間地域では高齢化・過疎化が進展することで、農業の担い手の不足、高齢専業農家の割合の増加、耕作放棄地の増加、②平地農業地域では、大規模個別経営や集落営農組織等の担い手への農地の利用集積と高齢兼業農家の土地持ち非農家化、③都市近郊では混住化と農地転用の進展による非農家の増加と水田の消失が、それぞれ進展しており、水田作地帯における農村コミュニティの均質性は薄れ、抱えている課題も異なってきた。このため、それぞれの地域が抱えている課題を踏まえて、農村コミュニティが従来から発揮してきた機能を維持・再生するための取り組みを行える農村コミュニティの担い手を確保し、それをバックアップするための体制を整備して（地域に立地する様々な農業・農村関係の組織に参画して）もらう必要があると考えられる）、きめ細かく対応していく必要がある。</p> <p>このため、水田作地域の農村コミュニティ問題、多様化しつつある担い手の状況、農村地域に立地する様々な組織・団体の活動に精通した研究者を公募する。</p>	<p>平成26年4月1日</p> <p>公募時のキーマワード： 1. 水田作地帯 2. 農村コミュニティ 3. 多様な担い手 4. 農業・農村関連組織</p>

研究業績報告

(氏名) ○○ ○○ (-)

研究実施機関及び期間	研究概要	発表の時期及び方法	共同研究者

○ 研究業績報告の書き方

研究業績報告

総枚数 ページ

(氏名) 農 林 太 郎 (〇-1)

○ 業績整理区分

- 学会 (誌) 発表
学会誌掲載論文又は学会での講演要旨を整理する。
- 公刊図書
一般に市販されている書籍に掲載された論文、総説、実用記事、広報記事等を整理する。
なお、単行本や定期刊行物など図書又は雑誌の形式や発表形態で区分するものではない。
- 機関誌発表
国、地方公共団体、公庫、公団、大学、外国政府機関、国際機関等から発表された研究報告、年報などの刊行物に掲載論文、総説、研究資料などを整理する。
なお、企画部門等において研究総括検討会議資料、研究推進情報資料等を任務として取りまとめ発表したものを含む。
- その他
上記以外のもので、研究業績をもとに取りまとめ、成果又は資料として発表又は公開されたものを整理する。
例 特許実用新案
新聞記事
農業技術の普及資料
研修テキスト 等

- ### ○ 業績整理順
- 各区区内の業績記載順は、学会誌や所報告のような重要度の高いものを先に記載し、口頭発表等は、その後に記載すること。

- ### 注意事項
- 同一業績を学会誌に掲載後、機関誌に掲載した場合等は主要な方で区分してダブル記載しない。
 - 主任担当者の〇印については共同研究者の中で食い違いのないように注意すること。
 - 学術用語については、事務担当者が理解できるよう別紙により解説すること。
 - 左の余白を20mm以上とること。

研究実施機関及び期間	研究業績	発表の時期及び方法	共同研究者
〇〇〇〇研究所 自昭和〇年〇月〇日 至平成〇年〇月〇日 〇〇〇〇研究所 自平成〇年〇月〇日 至 現 在 海外における研究期間がある場合 科学技術庁〇〇在外研究員として 〇〇〇〇国 〇〇〇〇研究所 自平成〇年〇月〇日 至平成〇年〇月〇日	I. に関する研究 (研究の背景) → (テーマ毎に記入) ①について記載 (研究の方法) → (#) ②について記載 (研究の成果) → (#) ③について記載 (研究に対する評価) → (#) (研究の分担) → (#) (学会 (誌) 発表) 1) に関する研究 → について [.] タイトルが同じ場合はサブタイトルを付けるか、解説を加え違いをばっちりさせる。 主たる業績は2~3行の解説を加える。 なお、重要度の低い業績は省略可。 2) について (講演要旨) → 講演要旨 → について 3) abcdefg hijk lano parst (.) → 外国語の場合は和訳する。 4) 投稿中の場合はその旨記載し、発行予定年月及び巻号を記載する。 なお、必ず受理書を添付の事。 (公刊図書) 1) について 公刊図書の場合は誌名及び発行元を記載する。	研究業績は、優れて重要度の高い順から記載し、一連で数多くある場合は、それらの業績を総合または集約したテーマをつける。 なお、テーマ等に新しいページにする。 ① 研究の目的は何か ② 研究方法の創造性 などを明記する。 ③ 成果 (各200~300字程度) (ア 新しい技術開発 イ 新有用物質や現象の発見 ウ 新優良品種の育成導入 エ 新理論の確立 オ 実験手段、測定方法等の創案 カ 有用データの収集、解析、考案) 1 農業への寄与 2 科学上の寄与 3 研究推進のための寄与 の観点から利益性、貢献度を適切に表現する。 共同研究をし、候補者が分担した業績 (企画立案、試料採取、各種分析、現地調査、結果の取りまとめ等) を明確に記載する。 平成〇年〇月 〇〇学会紀事〇巻 P〇〇~〇〇 〇農林 太郎 ↑ 山田 二郎 〇農林 太郎 〇〇〇〇学会 講演要旨集第〇集 P〇〇~〇〇 〇農林 太郎 A.B.Cdefgh (カタカナ) 平成〇年〇月 〇〇報告 (投稿中) 〇号 ↑ 発行予定 〇年〇月 〇農林 太郎 〇農林 太郎 山田 二郎 〇農林 太郎 A.B.Cdefgh カタカナ	共同研究者 農林 太郎 山田 二郎 農林 太郎 農林 太郎 農林 太郎 A.B.Cdefgh カタカナ
◎ 以下「学会 (誌) 発表」の例と同様に業績整理区分等に業績を列記する。 なお、テーマ等に新しいページとすること。			
(機関誌発表)	1) 2) 3)		
(その他)	1) 2) 3)		
(1)			
(2)			
(3)			
		合 計	〇〇点 (〇〇)
		学会 (誌) 発表	〇〇点 (〇〇)
		公 刊 図 書	〇〇点 (〇〇)
		機 関 誌 発 表	〇〇点 (〇〇)
		そ の 他	〇〇点 (〇〇)
		主任担当 業績数	

業績ページに業績の合計を入れる。
(サブテーマ等には不要)